

# 工芸

応募点数	60点	招待作品	17点
入賞点数	7点	展示点数	74点
入選点数	50点	◎は移動展出品作品	

(総評)

人間が美を産み出す力はどこから起こってくるのでしょうか。

とりわけ、工芸制作の現場では、この根源的な問いかけへのアプローチに、人と素材との関わり方についての考察は欠かせません。一つの「かたち」へと自己を表現する際、作り手はその対象とする素材をまず選択し、さらにはそれを加工し調製する必要があります。この初動のプロセスのうちに、彼らは心のなかに想起したイメージをどのように可視化するかを見通して、ついに素材の物質的特性に自己の理想的な「かたち」を案出するという方向性をとるのです。かたや、素材の持っている可能性をさまざまに引き出して、自己を「かたち」に表現しようとする造形的な思考も、それを支える技術がなければたちまちおぼつかないものとなってきます。素材との濃密な関わりの中で生じるさまざまな意思や感じ方も含め、工芸家はその心的なイメージを一つの「かたち」へ成立させるためには、素材に適った技の獲得とその錬磨が不可欠と言われるゆえんです。

さて、今年の県美展では、66点の応募出品があり、そのうち7点が受賞しました。応募状況（出品数）では昨年（75点）から大幅に減少していますが、応募作品に技術的な破綻や稚拙な印象を与えるものは、ほとんど見られませんでした。これは、本県工芸分野の作り手が完成密度の高さをつねに求め不断の努力を重ねてきた結果だろうと考えます。

ところで工芸の造形力とは、個人の内省的な独白的表現のなかだけではなく、幅広い経験的な領域からそれらを総合して再構築する能力のなかで発揮されてこそ、ひととき人心を魅了するように思います。この人を魅了する力を「美」と呼ぶならば、自己を「かたち」に実現するための技術が問われる工芸分野にとっては、固有の材質を活かすために一定の方法で伝統的な技術に用いられてきた素材について、その造形的可能性をいま一度アクティブに捉え直してみるとより豊かな表現性も生まれてくるのではないのでしょうか。これまでも真摯な制作態度を貫いてきた、本県の工芸的造形の表現者にぜひとも一考をお願いしたい。

(文責 石崎 泰之／山口県立萩美術館・浦上記念館学芸専門監)

知事賞 ◎

こくう  
虚空

かわ なべ まさ き  
川 辺 雅 規 (出雲市)

宙吹き熟技と冴えたカットの技がみごとに融合した造形。透明ガラスに白色ガラスを被せる工程を5回繰り返し、最後に漆黒調の昏い色味のガラスを厚く施している。加えて、かたちを張りの強い胴部とそこから伸びやかに立ち上げられた繊細な鶴首という対照的な造形性で表現している。これらの表現性から、作り手の制作（自己を一

つのかたちに表示する) 態度に、対比的な美質を含有する総体として追求しようという、強い意思ないし明快な目的が読み取れる。これが本作の造形力の凄みにつながっている。(文責 石崎 泰之)

金 賞 ④

もめん てつむぎ えがすり きもの なんごく  
木綿手紡絵緋着物「南国のリズム」 木のした えりか  
木 下 恵理香 (出雲市)

緯糸に手紡ぎ糸を用いているため、平織ながら重厚な布地の着物に仕上がっており、また素材独自の風合いとしてそれがみごとに視覚化された力作である。藍と白の二種の経糸で区分けしながら織り出した絵柄は、熱帯性植物のハイビスカスの花である。その簡潔な文様を大胆に配する構成法は、17世紀後半に流行した元禄小袖の自由闊達な気分を彷彿とさせる。一方で、南国のモチーフを主題としながら厚手の織であることの違和感はぬぐえない。一般に感じられるこの矛盾について深謀し、是非とも次作で飛躍の糧としてほしい。(文責 石崎 泰之)

銀 賞 ④

けやきつく まきがみふうこうぼん  
欂造り巻紙風香盆 たなか いさお  
田 中 勇 夫 (出雲市)

巻物を表現した香盆は、欂材をノミと鉋を使い彫り込んでいく技法は木工で他の技法で表現し得ない曲線や、量感が、削り物の特徴で、紙のたるみを微妙な起伏の曲面で表現し素材特有の簡素な木目に変化を与えて美しく形態、機能のバランスにも優れているが、仕上げに今一つ、心づかいがあれば一層よい作品になったと思う。作者県展初出品、今後の活躍を期待したい。(文責 正木 潤)

銀 賞 ④

しのぎ て うずもんおおつぼ  
鎚手渦紋大壺 やま だ まさ ひこ  
山 田 正 彦 (松江市)

球形の器胎を渦巻状にけずり上げるもので、丁寧な仕事で見事に仕上げられている。釉薬は濃い藍色に白濁釉がむらむらと美しくかかり動きを感じさせる。

昨年に続く銀賞で技術は確かであるが、欲を言えば軽やかな作風も期待したい。

(文責 藤間 寛)

銅 賞 ④

あかつき ひかり  
暁の光 うえ の ゆき み  
上 野 幸 美 (出雲市)

紙塑人形は、独自の粘土で人形を作り、乾燥させ、和紙を重ね貼りして思いの色を出していきます。絵具は、顔を書く時だけ使います。作者が見た暁の光を表現するために、古代の衣装に、和紙を重ね貼りして、色合いや、やさしさを工夫しています。羽衣の流れは、風や人形の動きを感じさせるのに役立っていると思います。心地よい作品です。こんな風に、空を飛べたらステキですね。(文責 吾郷江美子)

## 銅賞 ②

かたえぞめ せいじゆ  
型絵染「精樹」

つき おか 綾 (出雲市)

型を彫り色を擦り込んだ作品である。対称に型を置き鹿の色を変える事によって、まるでアンディ・ウォーホルのポップアートを思わせる。一方で赤を変えずに残しているところが効果的である。(文責 黒川 裕子)

## 銅賞 ③

こえまつじゅうに かくちやびつ  
肥松十二角茶櫃ひろ かね いさむ  
広 兼 勇 (益田市)

この茶櫃は松材を指物の技法で十二角形に組上げた作品です。今となっては貴重となった肥松の柾目板を天板、側面に使用してあります。多角形になると接合部の角度調整が中々難しくなって行きますが、作者は長年家具職人としての経験を通して得た技術を生かし重厚な仕上がりに到達しました。天板の黒白柿材の線象嵌部分の太さと内側の柄の処理を改善すればより一層輝くのかなと思います。今後も作者の木工芸作品に注目したいと思います。(文責 渡部 良和)

## 入 選

題 名	氏 名	備 考
桑木飾箱	井 上 雅 洋 (出雲市)	
白かいらぎ大皿	郡 司 位 秀 (松江市)	
亀甲紋真珠釉陶籠	勝 部 進 (安来市)	
秋祭りの巫女	松 本 輪加子 (松江市)	
古事記雄略天皇章志都歌刻字	高 橋 成 和 (松江市)	
型染タペストリー ーキャベツ畑にてー	神 田 立 (松江市)	島根工芸連盟賞
青銅流線紋鉢	田 中 文 哉 (松江市)	
織部釉千点文壺	高 宮 輝 好 (松江市)	
茶碗	江 村 一 雨 (松江市)	
大皿	江 村 一 雨 (松江市)	
夏のひととき	小 村 眞知子 (出雲市)	
伊羅保茶碗	森 脇 凱 人 (松江市)	
水指 (火櫛)	森 脇 凱 人 (松江市)	
今日から一年生	大 草 章 代 (出雲市)	
茶わん	鹿 島 浩 二 (松江市)	
杉造拭漆盛器	朝 津 賢 一 (出雲市)	島根工芸連盟賞
三重の塔	伊 藤 康 徳 (松江市)	島根工芸連盟新人賞
櫨木造盛器	川 西 建 次 (奥出雲町)	
緑釉鉢	濱 屋 日奈多 (松江市)	
緑釉水文鉢	白 鹿 護 (松江市)	
黒青釉壺	古 田 廣 司 (出雲市)	
青釉練鉢	古 田 廣 司 (出雲市)	

題名	氏名	備考
漆黒赤光鉢	福間基 (松江市)	
壺 (白鳥飛来)	岡義雄 (松江市)	
青瓷鉢	西田弘志 (安来市)	
六角水指	越野良一 (松江市)	
香炉	越野良一 (松江市)	
粉引茶碗	板倉清之 (出雲市)	
ネズミフグ	梶岡修 (安来市)	
夫婦昇鯉	梶岡修 (安来市)	
硝子酒器揃え「彩～sai～」	川辺雅規 (出雲市)	
cocochi	かわなべかおり (出雲市)	島根工芸連盟賞
cocochi	かわなべかおり (出雲市)	
ねこ鉢	陶山詠司 (雲南市)	
葡萄文壺	陶山詠司 (雲南市)	
⑩ ねずみ志野花器	螺山勝實 (浜田市)	
⑩ 炎 (花生)	岩谷敬信 (大田市)	
⑩ 辰砂釉鉢	野木拓真 (大田市)	
⑩ ビードロ釉鉢	河野秀太 (大田市)	
⑩ 灰釉鉢	田中良汰 (大田市)	
⑩ 黒天目白萩茶盃	水上隆 (大田市)	島根工芸連盟賞
飴釉七宝彫紋花入	荒尾久美 (大田市)	
⑩ 飴釉七宝彫紋花入	荒尾久美 (大田市)	島根工芸連盟新人賞
⑩ ざくろ文大皿	江戸端実 (大田市)	
鉄釉花器	江戸端実 (大田市)	
⑩ 裂文器	中尾厚子 (津和野町)	島根工芸連盟賞
⑩ 梅花皮釉細水指	嘉戸昇柏 (江津市)	
⑩ 四季の詩 鯛の鱗	佐々本順左衛門 (江津市)	
寄木細工箱	広兼勇 (益田市)	
⑩ 茶碗	山崎三仁 (大田市)	

## 招待

題名	氏名	備考
鉄釉椿文大鉢	柳楽勝重 (出雲市)	
沈泥彩緑釉蓋物	犬山卓也 (出雲市)	
⑩ スリップウェア楕円鉢3客	福間琇士 (松江市)	
⑩ 辰砂鎬手蓋物	石飛勝久 (雲南市)	
櫛造木目沈銀盛器	濱田幸介 (松江市)	
ほら紹織り 菱紹生絹着物「清滝」	松浦弘美 (松江市)	
⑩ 縹花器	内田和秀 (松江市)	
桐拭漆曲手付盆	渡部良和 (雲南市)	
入日	吾郷江美子 (出雲市)	
⑩ 型絵染め帯	黒川裕子 (江津市)	

	題 名	氏 名	備 考
⑧	横座花生	福 郷 徹 (益田市)	
	杉造木画観音屏風	藤 原 正 (出雲市)	
	布張り色絵変り溜塗蒔絵角皿 (5 枚組)	石 村 稔 (松江市)	
⑨	辰砂呉須塗分鉢	荒 尾 浩 之 (大田市)	
	栗縁神代杉木彩衝立	深 田 学 (雲南市)	
	省胎七宝鉢「シロツメクサ」	松 本 三千子 (松江市)	
	栓材神代杉松皮結界	正 木 潤 (出雲市)	